

「公共施設のあり方検討委員会」答申後の取り組み状況等について

群馬県立近代美術館

1 施設の必要性について

①県立の美術館として2館ある必要性については疑問がある。しかし、2館とも美術館として一定の役割は果たしており、また、館林美術館は、平成13年に開設した新しい施設であることなどから存続とする。ただし、当面2館の運営を継続するとしても、その役割分担や位置づけについて早急に検討するとともに、利用者増加の積極的な努力を強く求めたい。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・近代美術館は、群馬県の美術の中核施設としてその存在意義を示し、県民文化の向上に寄与する施設であるべく努力を継続している。
- ・県民目線に立った企画展等を開催するとともに、民間企業（上毛新聞社）と共催で、県民の関心の高い展覧会（アンコールワット展）を実施するなど、多くの観覧者を得る努力を行った。

結 果

入館者数は、平成22年度にアンコールワット展を行ったこと等で13万人に迫る入館者数を記録した。平成23年度においては、原発事故に起因する展覧会の差替えや夏の節電対策による部分閉館等の影響で落ち込んだものの平成22年度につぐ実績となった。

また、教育普及事業参加者も大幅に増加している。

・入館者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
入 館 者 数 (前年度比)	111,931人 (△13.1%)	128,853人 (+41.1%)	91,301人 (△10.3%)	※平成23年度は上記特殊要因により減少

・教育普及事業参加者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
参 加 者 数 (前年度比)	16,121人 (+42.0%)	11,351人 (+41.9%)	8,000人 (+53.5%)	

・「アンコールワット展」(平成22年度)での入館者数

展 覧 会 名	会 期	入館者数
アンコールワット展	H22. 6. 5(土)～7. 4(日) 【30日間】	26,421人

②近代美術館は県の中心的美術館として、今後とも幅広い役割をより効果的に果たすことが望まれているが、館林美術館は、より地域に密着した形的美術館として、その役割を検討すべきであり、運営についても地域の方々の理解と連携協力により行われるべきである。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・ 県民の美術に対する多彩で高度な関心と要望に応えるため西洋絵画、近代絵画のほか古美術、現代美術、海外美術等を幅広く紹介している。
- ・ 若い世代を対象とした全国公募展「群馬青年ビエンナーレ」を開催し若手作家の育成を図るほか、県展(美術展、書道展)を毎年開催し、広く県民の芸術参画を促進している。



群馬青年ビエンナーレ2010 会場風景

結 果

「群馬青年ビエンナーレ」では、意欲にあふれた若きアーティストたちから今後の活躍を期待させるような多数の作品応募があった。県展では、美術や書道について、流派を超えた全県規模の展覧会を開催することで広く県民が文化芸術に親しむ機運が醸成された。

また、小さな子どもを連れた親子などが美術館を利用しやすい環境を整備したことで、幼児の入館者数が大幅に増加した。

- ・ 群馬青年ビエンナーレ及び県展の応募状況 (平成22年度)

展 覧 会 名	会 期	応募点数
群馬青年ビエンナーレ2010	H22. 7. 31(土)～10. 11(月)【64日間】	1,119点
第61回群馬県美術展覧会	H22. 11. 14(日)～11. 23(火)	1,066点
第61回群馬県書道展覧会	H22. 11. 27(土)～12. 13(月)	2,453点

2 管理運営方法について

①管理運営に多額の経費を要する施設であることから、両館の連携・協力による効率的・効果的な運営や施設全体としての経費削減について、具体的な検討を行う必要がある。また、施設のプラスイメージを生かした新たな歳入確保策についても、具体的な検討を行う必要がある。

- 両美術館の共同による研究・展示の実施、展示の巡回や物品等の共同購入などについて検討する。
- 近代美術館については、同一敷地内の歴史博物館との事務局統合や群馬の森等との連携・一体化など、管理運営の効率化について検討する。
- ポスター等への企業の広告掲載、企業協賛による事業実施など、歳入確保策について検討する。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・両館の展覧会の構成に両館の所蔵品を活用してきている（「現代の写真展-うつすこと・うつされたもの-」（平成22年度）、「マルク・シャガール版画展-この愛しき世界-」（平成23年度））。
- ・近代美術館と歴史博物館の庶務・経理部門を統合し、事務職員数を減らすことにより人件費の圧縮を図った（H21.4）。
- ・平成22年度に「企業協賛制度」を創設した。

結 果

- ・両館の所蔵品を活用した展覧会における入館者数

展 覧 会 名	会 期	入館者数
現代の写真展【常設展示】	H22. 10. 26(火)～12. 19(日)	3, 124人
マルク・シャガール版画展	H23. 9. 17(土)～11. 3(木)【4 1 日間】	10, 422人

- ・近代美術館及び歴史博物館の庶務・経理部門の統合（平成21年4月）

	統 合 前	統 合 後
近代美術館	3名	4名
歴史博物館	3名	(△2名)

- ・企業協賛実績（平成22年度）
2件 60万円
- ・5館夏休みチラシへの協賛広告の掲載
（平成21年度～ 1枠3万円）：4企業の応募



企業から協賛のあった
5館夏休みチラシ

②両館ともに優れた景観の中に位置する芸術・文化施設であることから、観光施設としての利用も視野に入れ、新たな利用促進策について検討するなど、県民に親しまれ、多くの県民が訪れる施設運営について検討する必要がある。

○県民に開かれた美術館として、県民ニーズを踏まえた施設の有効活用を検討するとともに、特に、館林美術館については、施設の地域開放について、地域住民や市町村等の意見・要望等をよく聞いて検討する。

○教育施設としての役割も十分踏まえて、学校利用の促進や子供向けのワークショップ、学校への移動教室など教育機能の充実について検討する。

○地域特性を生かした企画展示・巡回展示などについて検討する。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・美術館機能をより発揮させる観点から、現状を分析し、今後の施設の役割や運営について県民から幅広い意見を聞くため、平成22年度に「県民の意見を聞く会」を4回開催した。
- ・高崎市観光課と連携し、駅からハイキングのコースの中に位置する文化施設としてPRし、利用者促進を図った。
- ・県民から要望のあった県民ギャラリーの設置について検討（平成22、23年度）。調査報告書を作成した。
- ・平成22年度にホールの一部に無料の絵本コーナーを設置し、小さな子ども連れでも美術館利用がしやすい環境を整備した。
- ・平成23年度から、県民ニーズの高かった「ファミリータイム」を導入し、小さな子ども連れでも気兼ねなく楽しめる時間帯を設けた。
- ・学校の授業での活用、来館時の作品の理解に役立つよう平成21年度から「鑑賞ガイド」を毎年度作成し、各学校に配付している。
- ・平成23年度に美術館の鑑賞プログラム等活動内容をわかりやすく紹介するためのDVDを作成し、各学校に配付、学校利用の促進を図った。
- ・教育普及事業と学校利用の推進のため、平成23年度から教育普及係員として教職員1名を配置した。
- ・現在活躍する石内都氏、司修氏等地元（出身）作家や群馬ゆかりの作家の展覧会を開催した。〔石内都展(H21. 4. 25～6. 14)、司修のえものがたり展(H23. 4. 23～6. 19)〕
- ・平成22、23年度には、東京都の銀座にあるぐんまちゃん家で5館による展示・広報を実施した。
- ・平成22、23年度には、県庁31階観光物産展示室で5館による展示・広報を実施した。
- ・平成23年の群馬DESTINATIONキャンペーンに積極的に協力した。
- ・平成23年の群馬DESTINATIONキャンペーン開催期間を中心に、県立の美術館・博物館を県内外にPRするためラッピングバスを走行させた。
高速バスでは、成田空港・東京駅と群馬県とを結ぶ2路線、路線バスでは、主要駅（前橋駅、高崎駅、渋川駅）を含む2路線で半年間運行した。





路線バス



高速バス

- ・国の「ふるさと雇用再生特別基金」を活用し以下の事業を実施した。

平成22年度に、県立の美術館・博物館と周辺の観光スポットを結ぶ周遊ルートを紹介するルートマップを作成し、県内外の高速道路のサービスエリア等に配布を行った。

平成23年度には、近隣都県から県立の美術館・博物館へより多くの小中学生が教育旅行に訪れていただけるよう、引率者向けのガイドブックを作成し、1都5県の小中学校に配布した。また県立美術館・博物館をPRするため、各館を紹介する動画を作成し、ホームページに掲載している。



群馬の美術館・博物館
ルートマップ



群馬県教育旅行
ガイドブック

結 果

- ・高崎市観光課主催の駅からハイキング利用者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
利 用 者 数	19人	80人	32人	

- ・幼児入館者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
入 館 者 数 (前年度比)	2,646人 (+37.5%)	1,924人 (-29.7%)	2,735人 (+70.7%)	

- ・「ファミリータイム」利用者数の状況

年 度	23年度(新規)	備 考
利 用 者 数	106組(251人)	毎月第4木曜日(4、6、12月を除く) 9:30~12:00

- ・地元(出身)作家や群馬ゆかりの作家の展覧会における入館者数の状況

展 覧 会 名	会 期	入館者数
石内都展	H21. 4. 25(土)~ 6. 14(日)【44日間】	5,653人
群馬の美術展	H21. 9. 19(土)~11. 15(日)【51日間】	8,327人
岡本健彦展	H23. 1. 22(土)~ 3. 21(月)【50日間】	4,242人
司修のえものがたり展	H23. 4. 23(土)~ 6. 19(日)【50日間】	6,953人
群馬のガラス工芸展	H24. 1. 7(土)~ 3. 25(日)【68日間】	7,322人

3 管理運営主体について

- ① (略) ※館林美術館のみ対象
 ②両館とも、ボランティアとの協働による運営をさらに進めるほか、指定管理者制度導入について、他県での導入事例の検証を行うなど、同制度の導入の可能性についても検討する必要がある。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・ボランティアと協働して、美術館に来館した学校団体への対応、出張授業、教員向け研修といった「スクールサポート活動」や、入館者の減少する冬期の集客イベントとして「美術館アートまつり」などを実施している。
- ・平成22年度に都道府県立の博物館・美術館・文学館等（登録博物館及び博物館相当施設）における指定管理者制度の導入状況について全国調査（130施設）を行い、導入状況の検証を行った。



結 果

近代美術館のボランティアは、平成5年度から活動を開始しているが、来館者と美術館との架け橋的存在として、美術館活動を支える重要な役割を担っている。

活動内容も、所蔵作品の解説、館内案内、資料整理、アートイベントでのサポート、学校団体のサポート、お茶席サービスなどがあり、美術館活動の充実とともに、多彩さを増してきている。

また、指定管理者制度の全国調査の結果であるが、これまで直営としていた施設は、ほとんどが当面は直営を継続する方針であり、従前に管理委託で運営していた施設については、おおむね指定管理者制度を導入している。なお、調査結果、メリット・デメリットを比較検討した結果、近代美術館は当面直営で運営することとされている。

- ・ボランティア登録者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
登 録 者 数	1 2 6 人	1 0 6 人	9 0 人	

- ・スクールサポート活動実施回数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
実 施 回 数	4 2 回	1 8 回	1 9 回	

- ・美術館アートまつり参加者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
参 加 者 数	1, 497 人	1, 030 人	1, 904 人	H21は4回、H22 H23は2回実施

- ・全国調査結果（平成22年度）

区 分	直営施設	指定管理者制度導入施設		備 考
		公募	非公募	
調査130施設	98施設 (75.4%)	25施設 (19.2%)	7施設 (5.4%)	

4 その他

①当面2館の運営を継続するとしても、その管理運営について、徹底した点検と見直しを求めるものであり、今後行う改善等の取組については、一定の年限を区切って、目標を設定して行い、その取組や結果の検証を行う必要がある。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・あり方検討委員会の中間報告書を受け、平成21～23年度の3年間の目標を設定して、利用者増加策や経費節減などに積極的に取り組んだ。

結 果

数値目標については、学校団体の受入校数は目標値を下回ったものの、他の2項目については概ね目標値に近い数値となった。

また、入館者数については、リニューアルオープンした平成20年度を除き減少傾向で推移してきたが、取り組み後は増加傾向に転じ、平成21年度を除き10万人を超える入館者を得ている。

- ・数値目標と実績の推移

項 目		23年度	22年度	21年度
学校団体の受入れ校数	目標	60校(3,600人)	45校(2,700人)	30校(1,800人)
	実績	44校(2,191人)	41校(1,814人)	41校(1,784人)
学校への出張授業	目標	30クラス(750人)	20クラス(500人)	10クラス(250人)
	実績	26クラス(748人)	12クラス(314人)	18クラス(452人)
教職員研修会の開催	目標	10回	7回	5回
	実績	10回(247人)	9回(112人)	10回(125人)

- ・入館者数の推移(平成20年度との比較)

年 度	23年度	22年度	21年度	20年度
入 館 者 数 (前年度比)	111,931人 (△13.1%) 【H20年度比：+10.0%】	128,853人 (+41.1%)	91,301人 (△10.3%)	101,771人 (+940.2%)

※H17.12.19～H20.4.25まで休館(県庁昭和庁舎で展示を行った)

※23年度は原発事故による展覧会の差替え及び夏の節電対策による部分閉館等により減少